



妻西中キャラ めにしちゃん

# 学び磨き鍛える

正しい判断力とたくましい実践力を  
もった妻沼西中生を育む学校

発行 熊谷市立妻沼西中学校  
電話 048(588)1361  
FAX 048(589)0496  
令和7年6月10日  
第7号

学校だより

## 郷土の偉人～齋藤別当実盛～

校長 清水 利浩



今年の3月、熊谷市の小中学生に左の写真にある小冊子が配られました。**齋藤別当実盛**は、平安時代の終わり頃に越前国(現在の福井県)で生まれた武士です。実盛は、その後大きく成長し、源氏の棟梁である源為義(ためよし)に仕え、現在の妻沼の地に移り住みました。

1155年、「**大蔵館(おおくらやかた)の戦い**」という争いが起きました。これは、源氏同士の争いで、源義平(よしひら)が、源義賢(よしかた)を殺害するという戦いでした。源義賢の2歳の子に、**駒王丸(こまおうまる)**がいました。駒王丸は、のちの源義仲(よしなか)です。齋藤実盛は、この駒王丸を預かり、信州(長野県)に送り届けたといえます。

**保元の乱と平治の乱**が起きると、齋藤実盛は、源義朝(よしとも)に従い、活躍をしました。しかし、平治の乱で源氏が敗れると、実盛は、平氏との結びつきを

強くし、平家領である長井荘(ながいのしょう)の荘園領主となったようです。妻沼聖天様はこの頃、開かれたといえます。

源平の合戦(治承・寿永の乱)がおこると、ほとんどの武蔵武士は、源頼朝に従いますが、齋藤実盛は、一貫して平氏方につきます。富士川の戦い(1180年)では、平氏方の案内役として、東国の武士の強さ、恐ろしさについて進言したといえます。

平家方が敗れていく中、齋藤実盛は、ただ一騎踏みとどまります。1183年、**篠原(しのはら)の戦い**(現在の石川県加賀市)で、源義仲軍に討たれて亡くなりました。源義仲は、かつて助けた駒王丸です。齋藤実盛はその時、70歳を越え年老いていました。齋藤実盛は、年老いた武将と侮られたくないので、白髪を墨で黒に染めて出陣していたのです。

現在、聖天様にある実盛像は、まさにその時の様子を示しています。源義仲は、このことを知り、涙したと伝えられます。

<参考>『マンガ「齋藤実盛と妻沼聖天山」』令和7年3月 熊谷市教育委員会 ・熊谷デジタルミュージアム 熊谷市江南文化財センター